

名古屋市主催

名古屋市内の介護サービス事業所等に対するBCP策定支援事業

# BCP策定後支援【訓練】

---

2025年11月10日(月) 13:30 – 16:30

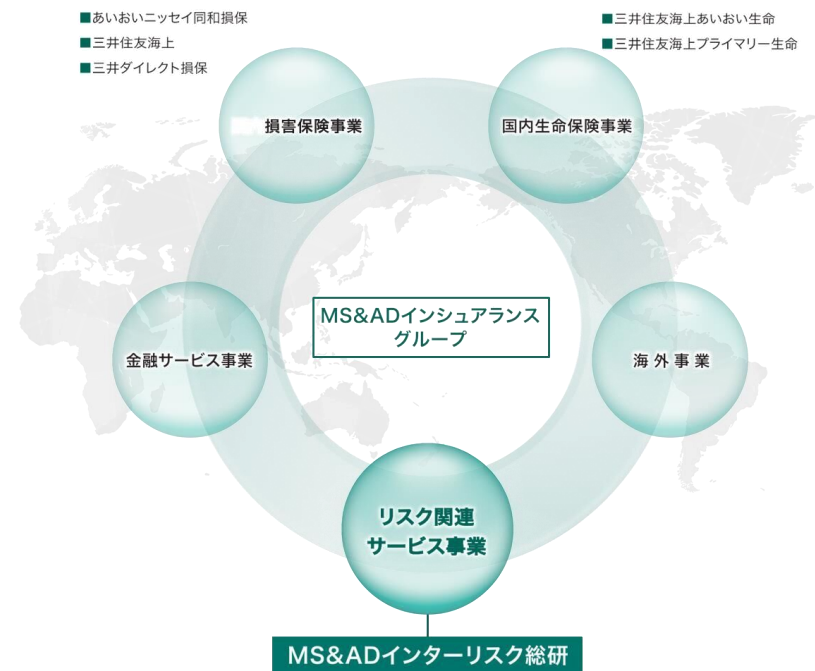
【事務局】

MS&ADインターリスク総研株式会社

**MS&AD** MS&ADインシュアランスグループ

# 事務局の概要

商号	MS&ADインターリスク総研株式会社 英文名：MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.
本社所在地	〒101-0063 千代田区神田淡路町2-105 ワテラスアネックス (10～11階)
設立年月日	1993（平成5）年1月4日
資本金	3億3,000万円
売上高	48億5,200万円（2023年4月1日～2024年3月31日）
取締役社長	宮岡 拓洋
従業員数	457名（2025年4月）
事業概要	コンサルティング、受託調査研究、セミナーの開催／ 講師派遣、出版



年度	厚生労働省案件における実績（福祉分野）
令和元年度	社会福祉施設等におけるBCPの有用性に関する調査研究事業
令和2年度	介護サービス類型に応じた業務継続計画（BCP）作成支援業務一式
	障害福祉サービス類型に応じた業務継続計画（BCP）作成支援業務一式
令和6年度	業務継続計画（BCP）の適正な運用に関する調査研究事業



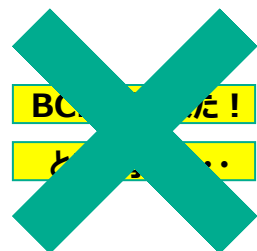
BCPの

**訓練の目的の理解**

**訓練方法の習得**と、自施設で訓練を  
実施する際の**具体的なイメージ構築**

**改善点の把握**

BCP策定完了



BCP実行可能

## 本講座の進め方 Contents

<b>I</b>	<b>【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント</b>	<b>25min</b>
<b>II</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方</b>	<b>15min</b>
<b>III</b>	<b>訓練体験ワークー自然災害編ー</b>	<b>70min</b>
	<b>(休憩)</b>	<b>10min</b>
<b>IV</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方</b>	<b>10min</b>
<b>V</b>	<b>訓練体験ワークー感染症編ー</b>	<b>45min</b>
<b>VI</b>	<b>まとめ</b>	<b>5min</b>

<b>I</b>	<b>【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント</b>	<b>25min</b>
II	【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方	15min
III	訓練体験ワークー自然災害編ー	70min
	(休憩)	10min
IV	【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方	10min
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

研修の目的は、自然災害、および感染症**BCP**の具体的な内容を、**職員間で共有すること。**



## ▶ 研修目的

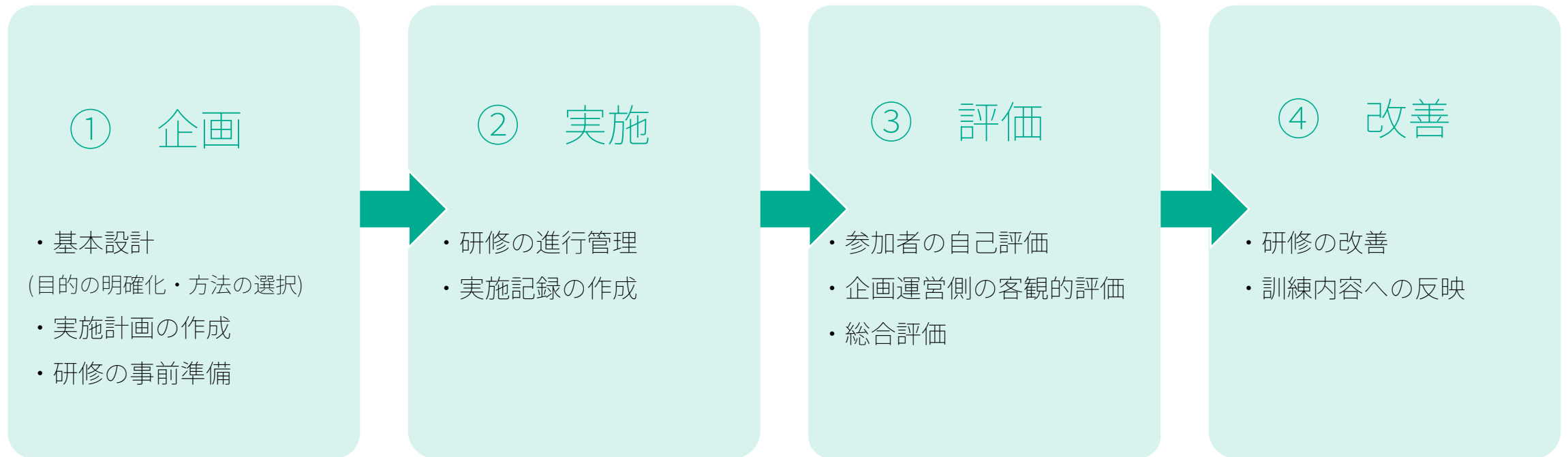
例1) BCPを理解してもらう

例2) BCPに関連する知識や技術を身に付けてもらう

## ▶ 実施方法

講義、ワーク形式、オンデマンド、eラーニング等

- ① 感染症及び災害に係る業務継続計画の具体的内容を職員間に共有する
  - ② 平常時の対応の必要性や、緊急時の対応にかかる理解の励行を行う
- 職員教育を組織的に浸透させていくために、
    - ✓ 定期的（年2回以上）な教育を開催する ※在宅系は年1回以上
    - ✓ 新規採用時には別に研修を実施する
    - ✓ 研修の実施内容についても記録する
  - 感染症の業務継続計画に係る研修については、感染症の予防及びまん延の防止のための研修と一体的に実施することも差し支えない。





研修企画で策定すべき項目とポイント

策定項目	ポイント
1 科目・テーマ	研修方針や年度の重点目標を念頭にテーマを設定する。
2 研修の目的	はじめに目的を短い文で箇条書きにしてみる。要点を明らかにすることが大事。
3 研修の到達目標	目的とともに、到達目標を必ず設定する。講師との打ち合わせが円滑になる。
4 日時	ローテーション職場では夜間開催が参加率を高める。その際、出席が勤務にあたるのか、自主参加かを明確にする。なお、OFF-JTは勤務として行う研修を指す。
5 会場	職場内の会議室等で行うのが一般的。研修内容や参加者数により、教室形式以外のレイアウトや茶菓子を用意する等、アットホームな雰囲気を出すとよい。
6 対象者	職場内の集合研修は、日常的な研修の機会の少ない非常勤職員やパート職員にとって有効。積極的に参加を促す仕組みを整えたい。
7 参加人数(規模)	職場内での集合研修は、参加者が顔見知りのこともあり、個性や役割(力関係)が固定化されている場合が多い。少人数の参加が多いので、全員が発言できる工夫が大切。
8 講師(指導者)	外部講師の場合は、緊急連絡先(携帯電話番号)を必ず聞いておく。外部講師を招いた研修はP43を参照。
9 タイムテーブル	60分に1度は休憩をプログラムに入れたい。勤務明けは疲れているため、リラックスして受講できる配慮が大切。
10 活用する研修技法 (具体例はP40、41参照)	研修目的を実現するために効果的な研修技法を組み合わせる。講義法の他にグループ討議等の参加型技法を組み合わせると意欲が維持できる。
11 費用(講師謝金等)	講師謝金は法人の報酬基準を決めておく。
12 教材、教具	外部講師の場合は、用意するのは講師か主催者(事業所)か等の役割分担を確認する。
13 評価・フォローアップの方法	参加者アンケートで受講者の習得度を測る。後日、上司コメントを得ることや発表会を行うことも方法。
14 担当者	事務担当者を明確にする。

## ▶ 目的の明確化

- 誰に？
- 何を？
- 学んでほしいのか？

例) レベル1 : BCPの概念概要の理解  
 施設のどこにBCPが置いてあるのか  
 報告ルート・報告基準の理解

レベル2 : BCPの初動対応の理解  
 優先業務の理解

研修技法	概要	長所	短所
講義法	知識や情報を修得する	効率よく知識を習得できる	単調になりがちである
討議法	問題解決能力等を養う	主体的な参加で気づきが得られる	知識の習得の効率性は劣る
理解促進討議法	テストと討議で、原理原則の理解を深める	討議法より知識の習得や気づきに優れている	テスト問題を作る手間がかかる
事例研究法	事例討議で疑似体験や原理原則を確認する	課題分析に優れている	事例を考える手間がかかる
ロールプレイング	基本動作や応用動作等の技術向上を図る	動作確認に優れている	知識の習得には不向きである
研修ゲーム	ゲームを通じて、体験的に技術向上を図る (手法は次頁を参照)	体験による満足感が高い	ゲームを自前で作るのは難しい
自己診断法	チェックリスト等を活用して、自己認知を深める	客観的に理解できる	チェックリスト作成は手間がかかる
その他の技法	見学、実習等		

【研修技法を組み合わせた研修形態の例】

1	オリエンテーション	基調講義	個人ワーク ・課題を分析(自己診断法・事例研究法など使用)	グループワーク ・個人ワークの結果を持ち寄り討議	まとめ	【講義先行A型】 講義で効率的に知識を習得し、ワークで具体化。基本的な形態。
2	オリエンテーション	基調講義	グループワーク	個人ワーク ・討議結果を受けて個人でまとめる	まとめ	【講義先行B型】 講義の後、討議で課題を浮き彫りにして、個人ワークでまとめる。
3	オリエンテーション	グループワーク ・具体的な取り組みを交換	個人ワーク ・討議結果を受けて個人でまとめ	講義 ・課題整理、まとめの講義	まとめ	【ワーク先行型】 断片なテーマのときに有効。体験から抽象化し理解に至る形態。
4	オリエンテーション	個人ワーク ・振り返り	講義 ・具体的な講義を心がける	グループワーク ・討議で理解を深める	まとめ	【内省先行型】 研修意欲が低い時や馴染みのないテーマを扱う場合に有効。

## 方法の選択

- 研修の目的やねらい、テーマの難易度、参加者のレベル・意欲、参加人数等に応じて**研修技法を組み合わせる**

## 講師

- テーマに応じた講師の選定
- 研修テーマに応じて、外部講師や**eラーニング**等の活用も有用

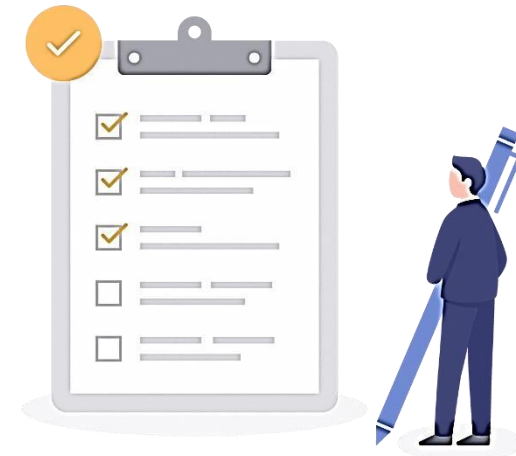
### ▶ 進行

- 進行具合に気を配る
- 参加者の反応を確認しながら進行する



### ▶ 実施記録

- 実施内容の記録を残し、適切に保管する



## 参加者による自己評価

研修目的の達成度について、参加者自身が評価

→定量的(点数化)方法と、定性的(自由記述)方法を  
目的に応じて効果的に活用する。

研修方法や内容に関する評価も得る

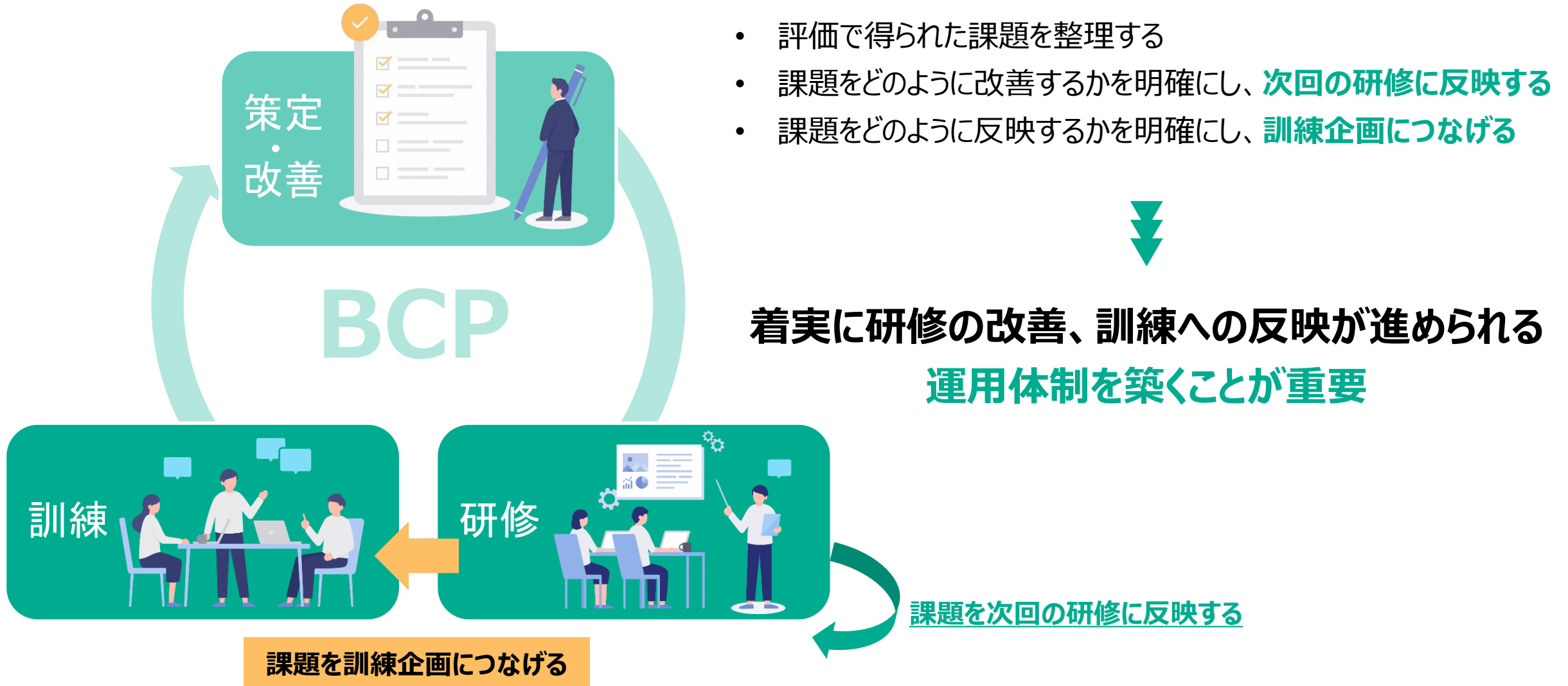
## 企画運営側による客観的評価

研修目的の達成度について、客観的に評価

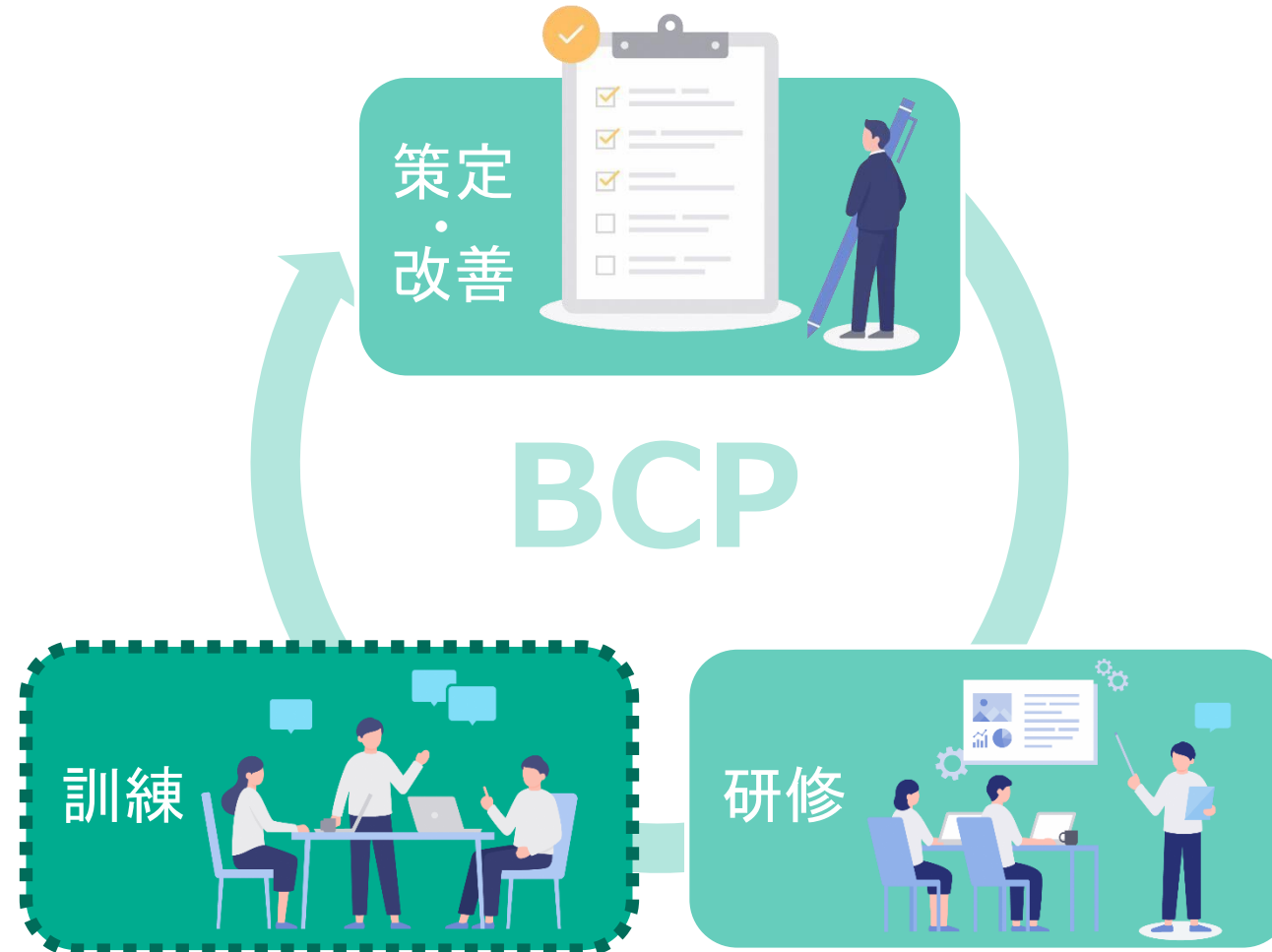
→研修中の参加者の様子  
→確認テスト等、定量的・定性的評価の活用

研修方法や内容に関する評価も行う

総合評価

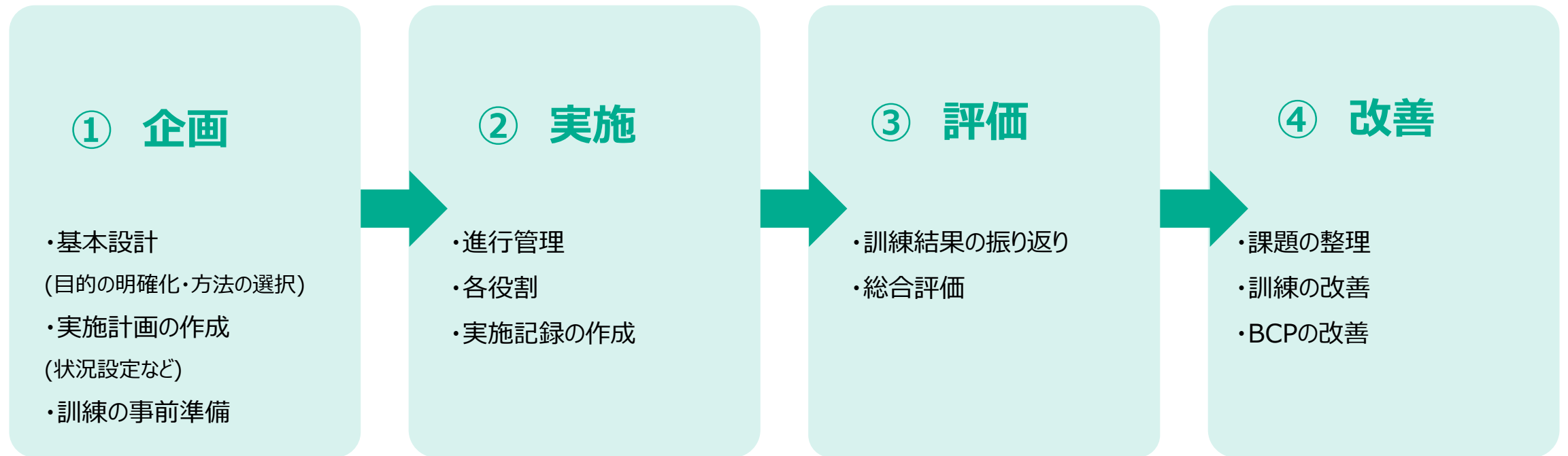


- 自然災害/感染症発生時に、**迅速かつ適切に行動できるようにすること**
- BCPをより実効性の高いものにするため、**課題を洗い出し、BCPの改善につなげる**こと



感染症や災害が発生した場合において迅速に行動できるよう

- ✓ 業務継続計画に基づき、
  - ①施設内の役割分担の確認
  - ②感染症や災害が発生した場合に実践するケアの演習等
  
- ✓ 定期的（年2回以上）に実施する ※在宅系は年1回以上
  
- 感染症の業務継続計画に係る訓練については、感染症の予防及びまん延の防止のための訓練と一体的に実施することも差し支えない。
  
- 災害の業務継続計画に係る訓練については、非常災害対策に係る訓練と一体的に実施することも差し支えない。



# ① 訓練の企画

## ▶ 目的の明確化

- 誰に？
- 何を？
- 学んでほしいのか？ / どのような行動をできるようになってほしいのか？  
例) レベル 1 : 決められたことを確実にできるようにする(BCPの範囲内)  
      レベル 2 : やるべきことを柔軟に発想できるようにする(BCPの範囲外)

## ▶ 訓練方法の選択

- “目的” + “参加者のBCPに関する習熟度”に適した方法を選択する

例)

実動訓練

机上訓練

実動 + 机上訓練の組み合わせ



## ① 訓練の企画

### ▶ 訓練方法の選択（つづき）

- 各訓練方法の特徴

	実動訓練	机上訓練
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害においては避難、感染症においてはゾーニング等、実際に人や物を動かして実施する訓練</li> <li>現場において実際に練習を行い、技術の習得・習熟を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭や文書により机上で進行する訓練</li> <li>状況を想定したシナリオに沿って、情報共有や意思決定等ができるか検討</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化ができる</li> <li>対応方法により実地的な習得・習熟が期待できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最小限のメンバーで実施可能</li> <li>短時間で多くの項目の検討ができる</li> </ul>
適する目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の状況や実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化</li> <li>現場での対応方法の習得・習熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定したBCPの確認及び改善</li> <li>BCPの手順の理解</li> <li>災害/感染症発生時への意識の醸成</li> </ul>
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策本部の立ち上げ</li> <li>緊急連絡網訓練等、発生場面を設定した一連の対応訓練</li> <li>感染症BCPの場合は、感染者発生時の隔離方法、ゾーニングの実施訓練 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者、職員の安全確保・安否確認</li> <li>時系列での役割分担の確認</li> <li>計画の手順や優先順位の確認</li> <li>具体的な場面設定や想定の下、計画の実施可否の検討 等</li> </ul>

## ① 訓練の企画

### ▶ 実施計画

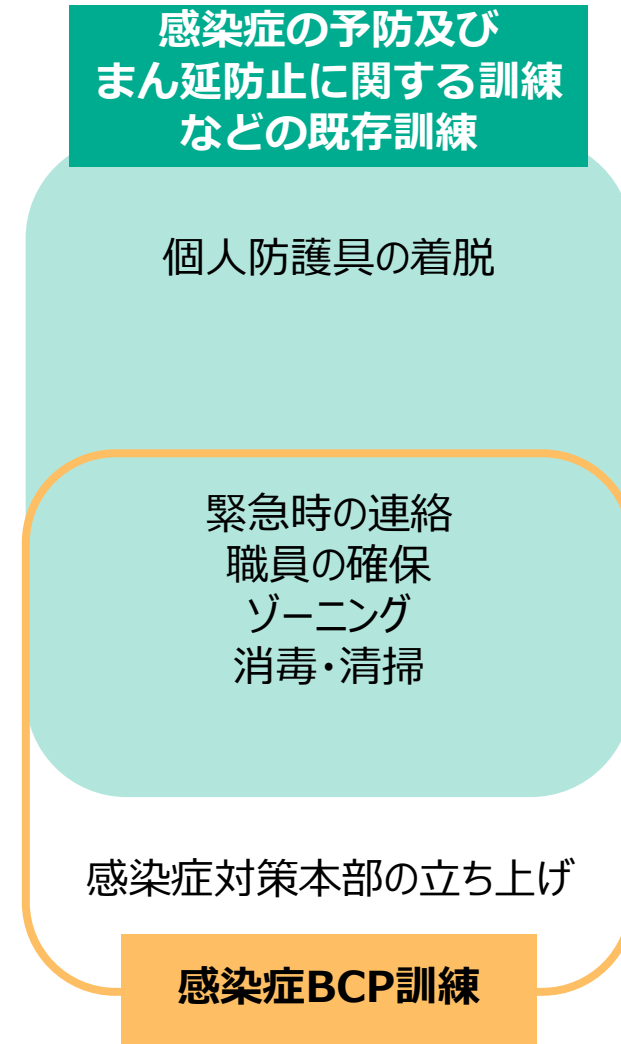
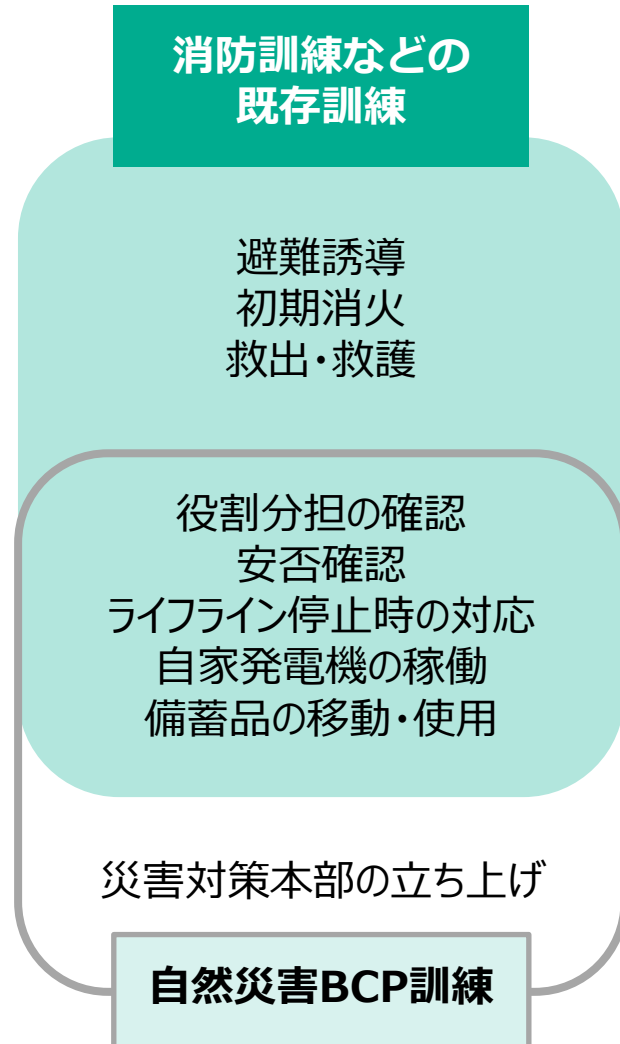
- テーマ（参加者に取り組んでほしい具体的な課題）の設定  
→ **評価可能**な課題設定が重要
- 自然災害時の被害/感染症発生時の影響の設定  
→ **リアリティ**が重要  
→ 施設の経営・運営にとって対応すべき **優先順位の高い**状況設定が重要
- シナリオ（時系列的変化）、プレイヤー（参加者の役割となる登場人物）、状況付与の設定  
→ **目的・テーマが達成できる設定**をすることが重要  
→ 参加者が **どのような情報分析を行うことをねらいとするか**、明確にする

### ▶ 訓練の事前準備

- 運営準備
- 参加者に対する **事前の周知**  
→ 事前にBCP及び訓練概要を伝え、理解を深めておいてもらう

# ① 訓練の企画

## ▶ 既存訓練と一体的な実施



## ② 訓練の実施(机上訓練\_ワークショップ訓練)

### ▶ 訓練の進行

- **参加者に実施方法やルールの周知徹底する**
  - 目的・テーマに応じたグループ編成を行うことが重要
  - 訓練開始前に、訓練の目的・テーマ、前提条件、訓練内での役割、訓練のルール、スケジュールの理解を徹底する

### ▶ 各役割

- **進行者**：参加者の発言を引き出す
- **参加者**：情報を分析・推定してグループとしての対応を検討していく
- **参加者への助言者**：訓練を円滑に行うため、参加者へ助言、誘導を行う

### ▶ 実施記録

- **実施内容の記録を残し、適切に保管する**

## ③ 訓練の評価

### ▶ 訓練結果の振り返り

- 訓練終了時に参加者全員で意見交換する  
→決まった形式はなく、自由に発言できるように進める
- 訓練内の対応について、他グループの発表も踏まえBCPの改善の余地を検討する  
→外部の専門家等の活用も有用
- 訓練自体の評価、検証も行う  
→次回の訓練につなげる

### ▶ 総合評価

- **参加者の自己評価**：定量的(点数化)方法と、定性的(自由記述)方法がある  
集計後の目的や活用方法に照らして項目を設定する
- **企画・運営側の客観的評価**：訓練目的やテーマの達成状況に対する評価と、参加者の行動に対する評価などがある
- **訓練結果の比較**：評価指標を統一することで、前回(または次回)の訓練結果や他訓練との比較も可能



**BCPの課題の抽出**

## ④ 訓練の改善



## ▶ 訓練の改善

- 訓練自体の課題は、担当者内でどのように対応するか明確にし、次回訓練企画に反映する

## ▶ BCPの改善

- 課題点についての対策は、優先順位をつけ、いつ、誰が実施するかを明確に計画し、進捗管理する  
→着実に対策が進められる運用体制を築くことが重要
- 対策を講じた項目は次回の訓練で対策が十分か検証する

I	【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント	25min
<b>II</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方</b>	<b>15min</b>
III	訓練体験ワークー自然災害編ー	70min
	(休憩)	10min
IV	【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方	10min
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

設定の説明・確認

講師から、訓練の各種条件や設定を説明します。

訓練ワーク

個人ワーク①発災当日の対応（時間進行型シミュレーション形式）

シチュエーション設定や時間経過に沿った「課題カード」と「状況カード」の配布により、発災時の状況を再現します。参加者は、配布された課題についてどのように対応するか検討します。

グループワーク①

グループメンバーに自身の回答や自施設のBCP上の課題を共有し、意見交換します。

個人ワーク②夜間・翌日以降の対応方針の検討

追加で付与される条件やワーク①の結果を基に、翌日以降の対応方針を検討します。

グループワーク②

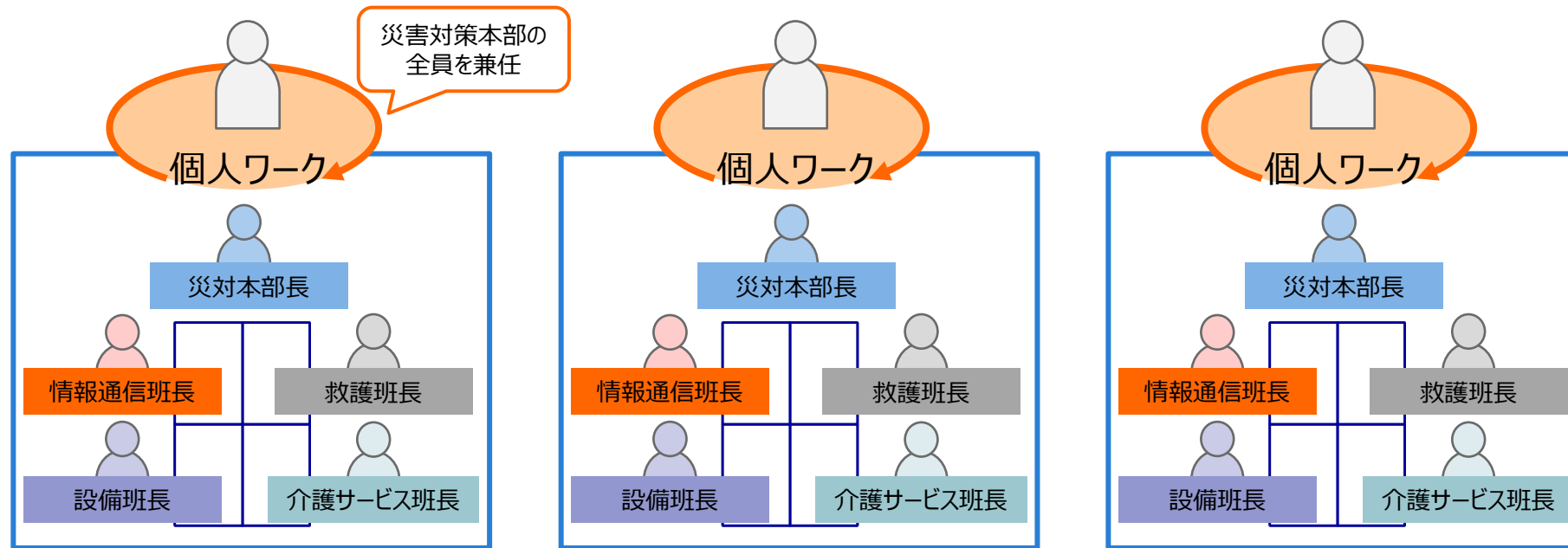
グループメンバーに自身の回答や自施設のBCP上の課題を共有し、意見交換します。

発表

訓練の結果を全体に向けて発表します。

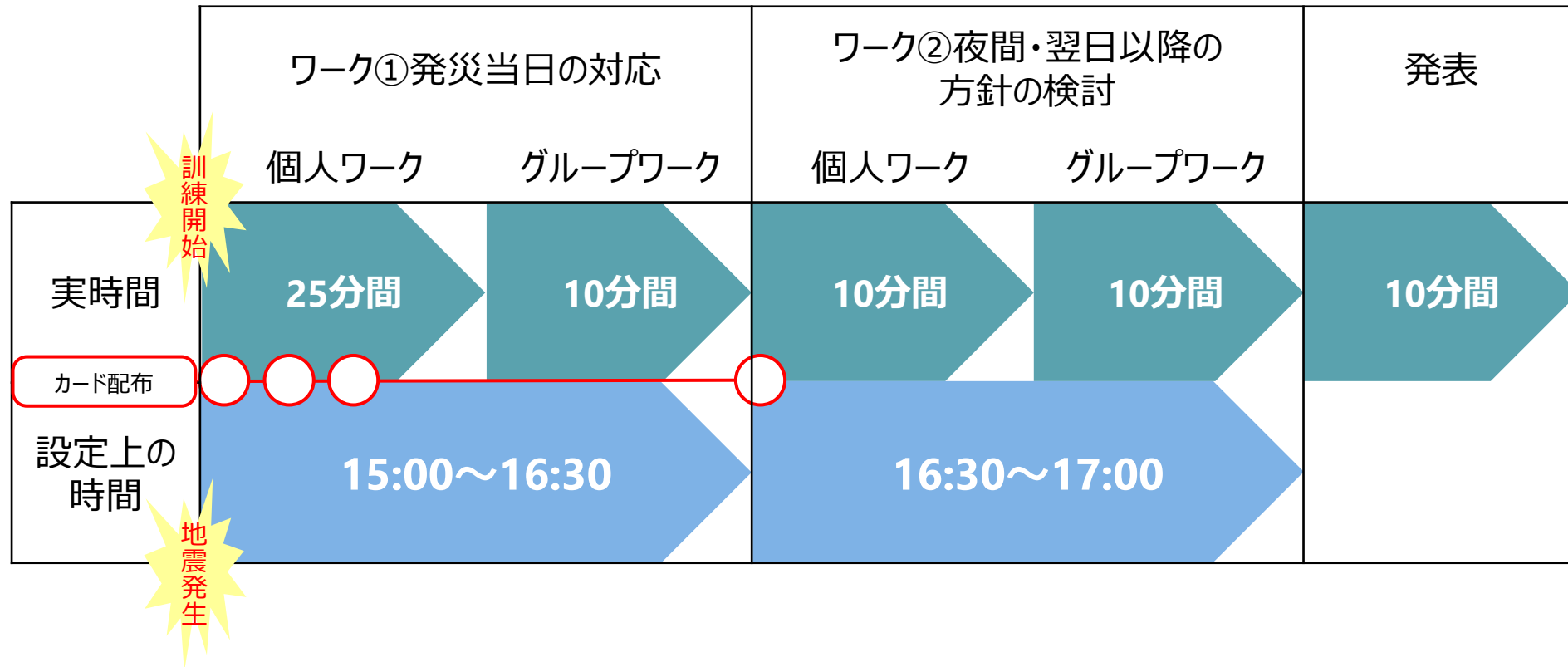
# 個人ワークの実施方法

- ✓ 個人ワークにて、自施設での対応を想定して回答してください。
- ✓ 実際の災害時は災害対策本部等で役割分担のうえ対応しますが、本日の体験会では、1人で全役割を兼任します。
- ✓ 個人ワーク後にグループワークを実施します。グループワークでは、自身の回答や自施設のBCP上の課題を共有し、意見交換してください。



# ワークの流れ

- ✓ 時間経過に合わせて配布されるカードにより、状況・課題が付与されます。
- ✓ ワーク①では約8分おきに、3回カードが配布されます。
- ✓ ワーク②では開始時のみカードが配布されます。



# カードの配布

- ✓ 状況カード・課題カードは手元に冊子として配布しています。
- ✓ 配布されるカードは、全員同じ内容です。
- ✓ **指示があるまでは絶対に開封しないでください。**
- ✓ ワーク①の進行中は、以下のスライドが投影されています。スライドの指示通りに封筒を開封してください。

## 【スライド】

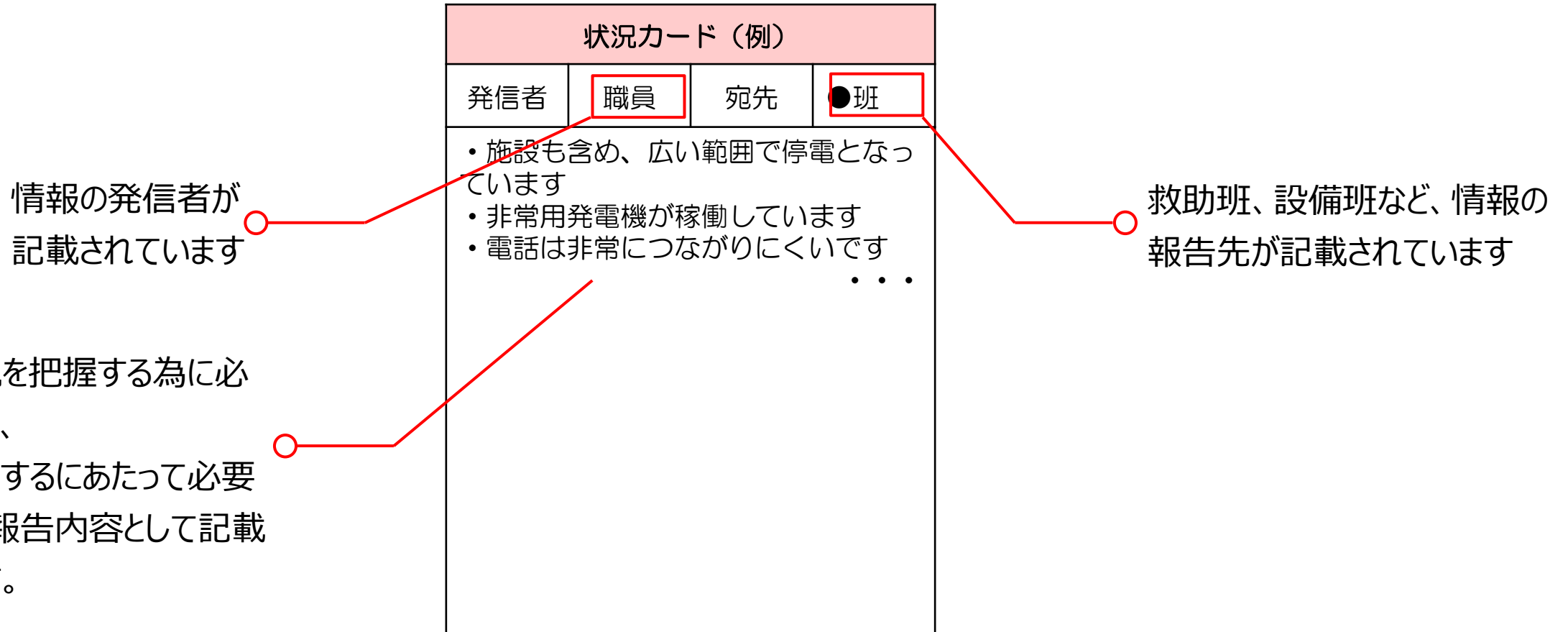
訓練開始から●分経過  
訓練上の時刻は●●:●●  
●番までのカードを開封してください

## カード〇

指示があるまで  
絶対に  
中身を見ないでくだ  
さい

# 状況カード

- ✓ 「状況カード」には、外部（訓練参加者以外）からの被害状況等に関する報告が記載されています。



# 課題カード

- ✓ 「課題カード」には、外部（訓練参加者以外）からの問合せ事項が記載されています。
- ✓ 現場の職員に対して指示をする形で、回答を可能な限り具体的に記載してください。

課題カード（例）			
発信者	職員	宛先	●班
発生時刻		●時●分	
<p>大変です！                      利用者のAさんが、意識不明の重体です。居室のテレビが落下し、頭部を直撃した模様です。                      どのように対応すればよいでしょうか？</p>			
<p>&lt;指示・回答記入欄&gt;</p>			



課題カード（例）			
発信者	職員	宛先	●班
発生時刻		●時●分	
<p>大変です！                      利用者のAさんが、意識不明の重体です。居室のテレビが落下し、頭部を直撃した模様です。                      どのように対応すればよいでしょうか？</p>			
<p>&lt;指示・回答記入欄&gt;</p>			
<p>こちらで救急（119）に通報するので、Aさんを慎重に安全な場所（ダイニング）へ移動し、応急処置を行ってください。</p>			

## ワーク②の実施方法

---

- ✓ ワーク②の開始時に配布される状況カードには、夜間・翌日以降の対応に関する情報が記載されています。
- ✓ 上記カードに加え、ワーク①で配布された状況カードや課題カードに記載した回答の内容を踏まえて、夜間・翌日以降にどのような対応事項が発生するか、それらの業務にどのように対応するのか検討してください。

## グループワークの実施方法

---

- ✓ 以下の点などについて、意見交換します。
  - 課題の回答
  - 課題検討の際に意識したこと
  - 回答に困った課題
  - 反省点
    - ・ BCPを確認したうえで回答できているか
    - ・ BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
    - ・ 回答は5W1H等が具体的な記載になっているか

## ワーク実施時の留意点

---

- ◆ シナリオに矛盾があっても、与えられたシナリオに則って、訓練を継続して下さい。
  - ・この時間帯で、このイベントが発生するのはおかしい・・・
  - ・電話が輻輳しているのに、外部からの問合せは来ないはず・・・
- ◆ 個人の考えを回答するのではなく、まず、BCPに記載された内容を確認した上で、回答を検討してください。
- ◆ 質問がある場合は、講師に質問して下さい。

I	【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント	25min
II	【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方	15min
<b>III</b>	<b>訓練体験ワークー自然災害編ー</b>	<b>70min</b>
	(休憩)	10min
IV	【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方	10min
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

## 発災

10月30日（木） 14:50

三重県南東沖が震源とみられる最大震度7（施設所在地は震度6弱）の地震が発生

## 天気・周囲の状況

- 天候は晴れ。気温は18度。日没は17:04頃の見込み。
- 津波は、現状は発生のおそれなし。
- 沿岸地域では液状化が発生。
- 施設は建物の倒壊は免れたものの、モノが散乱し、通常業務が難しい状況
- 現時点で周辺での火災発生はなし。

## 事業所の初動対応

地震発生直後、対策本部が設置され、業務継続計画に基づき、以下の対応が図られた。

- 利用者の安否確認
- 職員の安否確認
- 施設設備点検、被害状況確認・報告
- ライフライン状況確認
- 在宅職員の参集可否の把握

## 訓練開始

訓練上の時刻は 1 5 : 0 0

①のカードを開いてください

## 訓練開始から8分経過

訓練上の時刻は 1 5 : 3 0

②のカードを開いてください

## 訓練開始から16分経過

訓練上の時刻は 1 6 : 0 0

③のカードを開いてください

# ワーク結果について、 意見交換してください。

- 課題の回答
- 課題検討の際に意識したこと
- 回答に困った課題
- 反省点
  - ・BCPを確認したうえで回答できているか
  - ・BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
  - ・回答は5 W 1 H等が具体的な記載になっているか

訓練上の時刻は 1 6 : 3 0

④のカードを開き、  
ワーク②に移ってください。

# ワーク結果について、 意見交換してください。

- 課題の回答
- 課題検討の際に意識したこと
- 回答に困った課題
- 反省点
  - ・BCPを確認したうえで回答できているか
  - ・BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
  - ・回答は5W1H等が具体的な記載になっているか

回答例（1）

課題	指示・回答
近隣住民「施設に数日泊めてほしい」	職員の人員態勢に余裕があったため、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じたうえで、●●に受け入れる。

回答例（2）

課題	指示・回答
断水してトイレが使えない （下水道使用不可）	●●で備蓄している簡易トイレ●台を●●に設置する。また、施設内の通常トイレに使用不可の張り紙をし、利用者・職員・施設外からの避難者に対して口頭でも使用しないよう注意喚起する。

 ポイント

- ①BCPを確認したうえで回答を検討する
- ②どこに、どのように、等 5 W 1 Hを意識して記載する
- ③他のカードで付与された状況を踏まえて、回答を検討する

## 情報の集約と更新

怪我人の数やライフライン・設備の稼働状況は、常に最新の状況が確認できるよう、更新しましょう。

### <情報集約例>

		15:00～	15:30～	16:00～
人	負傷者	職員 15:00 岡本（打撲） ↑応急処置完了		16:00 宇野（骨折？） ↑●●病院へ自力搬送
		利用者	15:30 遠藤（頭部出血） ↑施設内で応急処置中	
	不明者	職員		
		利用者	15:00 加藤 15:00 遠藤	15:30 加藤発見 15:30 遠藤発見（怪我有）
ライフライン	電気	15:00 使用不可		
	ガス	15:00 使用不可		
	上水道	15:00 使用不可		
	下水道	15:00 使用不可		
設備	エレベーター	15:00 使用不可		未だ業者と連絡不通

## ワーク①の解説

### 応急救護

- ✓ 救急車を要請できない場合、自力で搬送するか、施設内で応急処置を行う必要があります。怪我人の状態に応じて検討しましょう。

### 帰宅（移動）判断

- ✓ 基本的に施設内に留まるよう、指示が必要です。ただし、職員が強く帰宅を希望する場合は、水・食料、ヘルメットなどの備蓄品の供与や、帰路上の危険箇所等の情報提供を行い、可能な限り安全を確保して帰宅させましょう。
- ✓ また、誰が帰宅したのか、帰宅後の連絡手段は何かなどの情報を整理しておく必要があります。

### 利用者対応（食事、トイレ、飲水等）

- ✓ 簡易トイレ・ポータブルトイレなどは、設置場所や提供手順も明確に指示しましょう。
- ✓ トイレ、飲水等は訴えのあった利用者以外にも対応するよう指示しましょう。
- ✓ 平常時と異なる対応をとる場合、関係する職員・利用者へのアナウンスも忘れずに行いましょう。

## ワーク②の解説

### 受援

- ✓ 外部から応援人員を受け入れる場合、どのような業務を依頼し、業務実施手順をどのように伝えるかを検討しておく必要があります。

### 参集判断

- ✓ 災害時の移動は危険を伴い、移動手段が限られることから通常よりも時間を要します。実施する業務量に対して必要な人員を整理したうえで参集を指示しましょう。

### 利用者対応業務の継続（食事、トイレ、飲水等）

- ✓ 災害時はライフラインが使用できない、人員が不足するなど、限られたリソースでの業務継続を迫られます。現状の設備・備蓄での対応が難しい場合、設備の増強や備蓄の追加購入を検討しましょう。

## 評価・振り返りのポイント

### 1. 訓練の評価

- BCPを確認したうえで回答できているか
- BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
- 回答は5 W 1 H等が具体的な記載になっているか
- 必要に応じて他班と情報連携のうえ、回答できているか

### 2. 今後の取組み

- 自施設で実施したい研修・訓練のテーマ
- 自施設で対策すべき事項（設備・備蓄など）

I	【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント	25min
II	【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方	15min
III	訓練体験ワークー自然災害編ー	70min
	<b>(休憩)</b>	<b>10min</b>
IV	【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方	10min
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

I	【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント	25min
II	【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方	15min
III	訓練体験ワークー自然災害編ー	70min
	(休憩)	10min
<b>IV</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方</b>	<b>10min</b>
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

## 進行

設定の説明・確認

講師から、訓練の各種条件や設定・シチュエーションを説明します。

個人ワーク①感染者発生時の対応事項の洗い出し

説明された設定・シチュエーションを基に、感染者発生時の対応事項を洗い出します。

講師から、追加の設定・シチュエーションを説明します。

訓練ワーク

個人ワーク②感染者発生時の対応

課題カードに記載された各対応事項について具体的な指示を出し、感染者対応・感染拡大防止をシミュレーションします。

グループワーク

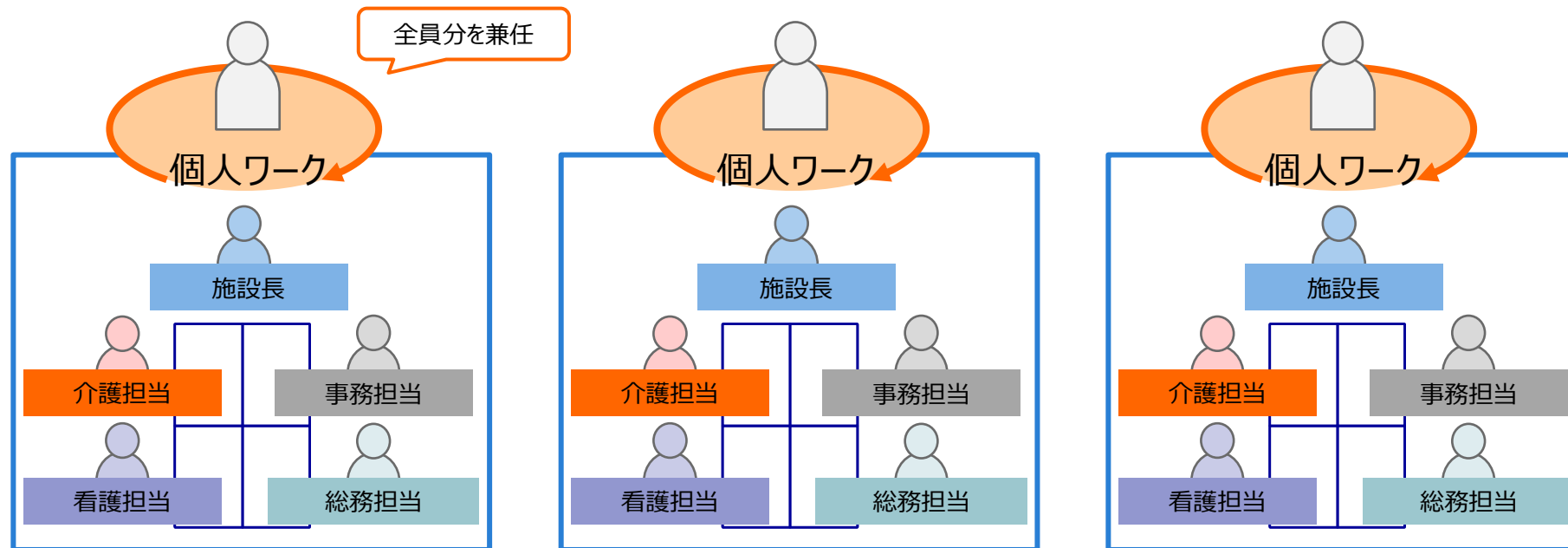
グループメンバーに自身の回答や自施設のBCP上の課題を共有し、意見交換します。

発表

訓練の結果を全体に向けて発表します。

## 個人ワークの実施方法

- ✓ 個人ワークにて、自施設での対応を想定して回答してください。
- ✓ 実際の感染症発生時は感染症対策委員会等で役割分担・相談のうえ対応しますが、本日の体験会では、1人で全役割を兼任します。
- ✓ 個人ワーク後にグループワークを実施します。グループワークでは、自身の回答や自施設のBCP上の課題を共有し、意見交換してください。



# ワークの流れ

- ✓ 説明①では、施設で感染疑い者が発生するまでの状況を説明します。
- ✓ ワーク①では、説明①の設定を踏まえて、感染者が発生した際の対応事項を洗い出します。
- ✓ 説明②では、施設で感染者が発生した際の状況を説明します。
- ✓ ワーク②では、説明①・②の設定を踏まえて、開始時に配布される課題カードに回答します。
- ✓ グループワークでは、個人ワーク①・②の結果について意見交換を行います。

	説明①	個人ワーク① 感染者発生時の 対応事項の洗い出し	説明②	個人ワーク② 感染者発生時の対応	グループワーク	発表
ワーク時間		10分間		10分間	10分間	
カード配布						
設定上の時間帯	~10月28日	10月29日		10月30日~		

感染者発生

# ワークの実施方法

## 個人ワーク①

- ✓ 感染疑い者が発生した状況下で、感染者が発生した際に必要となる感染者・感染拡大防止の対応事項を洗い出します。
- ✓ **具体的な指示・対応はワーク②で行うため、対応事項の洗い出しに留めてください。**
- ✓ メモや検討結果は、ワークシートに記入してください。



- 関係各所への連絡
- 消毒
- 感染経路や濃厚接触者の確認
- ゾーニング

## 個人ワーク②

- ✓ 課題カードは手元に冊子として配布しています。
- ✓ 配布されるカードは、全員同じ内容です。
- ✓ **指示があるまでは絶対に開封しないでください。**
- ✓ 「課題カード」には、外部（訓練参加者以外）からの問合せ事項が記載されています。
- ✓ 現場の職員に対して指示をする形で、回答を可能な限り具体的に記載してください。

カード〇

**指示があるまで  
絶対に  
中身を見ないでください**

課題カード（例）	
発生時刻	●時●分
利用者Aさんが感染したことについて、どのような機関や関係者に連絡すればいいですか。	
＜指示・回答記入欄＞	



- 保健センターとご家族に電話で連絡する
- 居室と共用スペースをアルコール消毒する
- 介護記録と過去のシフトを確認し、接触があった人の体調を確認する。
- ●●をレッドゾーン（感染者エリア）とし、レッドゾーンに入る際は使い捨てガウンを着用する。

## グループワークの実施方法

---

- ✓ 以下の点などについて、意見交換します。
  - 課題の回答
  - 課題検討の際に意識したこと
  - 回答に困った課題
  - 反省点
    - ・BCPを確認したうえで回答できているか
    - ・BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
    - ・回答は5W1H等が具体的な記載になっているか

## ワーク実施時の留意点

---

- ◆ シナリオに矛盾があっても、与えられたシナリオに則って、訓練を継続して下さい。
  - ・この時間帯で、このイベントが発生するのはおかしい・・・
  - ・自施設でこのような接触は起きない・・・
- ◆ 個人の考えを回答するのではなく、まず、BCPに記載された内容を確認した上で、回答を検討してください。
- ◆ 質問がある場合は、講師に質問して下さい。

I	【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント	25min
II	【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方	15min
III	訓練体験ワークー自然災害編ー	70min
	(休憩)	10min
IV	【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方	10min
V	訓練体験ワークー感染症編ー	45min
VI	まとめ	5min

## 説明①

### 感染疑い者の発生

10月29日（水） 15:00

昨日出勤し、本日非番であった職員Aから、新興感染症に感染した疑いがあるため、検査を受ける予定と連絡がありました。

この感染症は感染経路を飛沫感染としており、感染すると2～3日後に発熱、咳の症状が現れます。発熱は40度を超える高熱になることもあり、高齢者や基礎疾患のある人などは、重症化すると命をおとす可能性があります。また、症状の現れる約2日前～症状が無くなって約3日後が、他人に感染する期間と考えられています。

### 国内外の感染状況

- ・1か月前に海外で未知の感染症が確認され、世界的に徐々に感染が拡大しています。
- ・10日前に日本で初めての感染者が確認され、毎日全国で数名程度の感染が報じられています。
- ・国内外の感染状況、症状を鑑みて、日本政府はこの新興感染症を5類に位置づけました。
- ・3日前に、施設の所在する市町村内でも感染が確認されました。

## ワーク①

### 感染者発生時の対応事項の洗い出し

感染者が発生した際に必要となる感染者・感染拡大防止の対応事項を洗い出してください。

## 説明②

## 10月30日（木）（翌日）

- ・職員Aから連絡があり、検査結果は陽性で、新興感染症に感染していました。
- ・昨日、職員Aと接触のあった職員・利用者を調査したところ、職員Bと一緒に昼食をとっていたほか、利用者C・D・Eが食事介助、入浴介助、口腔ケア等を受けており、感染リスクの高い接触があったことが分かっています。
- ・上記の職員Bと利用者C・D・Eには今のところ感染症状は見られません。

		10月28日（火）	10月29日（水）	10月30日（木）
職員	Aさん	出勤	非番 体調が悪いため、検査を受ける	陽性であった旨を事業所に連絡
	Bさん	出勤 Aさんと一緒に昼食をとる	出勤	
利用者	Cさん	Aさんから食事介助を受ける		
	Dさん	Aさんから食事介助を受ける		
	Eさん	Aさんから入浴介助を受ける		

### ワーク②感染者発生時の対応

課題カードに記載された感染者対応・感染拡大防止に関する各対応事項について、具体的な指示を記入してください。

## ワーク結果について、 意見交換してください。

- 課題の回答
- 課題検討の際に意識したこと
- 回答に困った課題
- 反省点
  - ・BCPを確認したうえで回答できているか
  - ・BCPに記載がない事項にも柔軟に対応できていたか
  - ・回答は5W1H等が具体的な記載になっているか

# 解説

## 感染者・感染疑い者への対応

- ✓ 感染を拡大させないために、生活空間・動線の区分け、健康管理の徹底、感染対策を施したうえでの業務実施などを、速やかに実施しましょう。
- ✓ 必要に応じて、感染疑い者・濃厚接触者に対しても隔離や自宅待機などの措置をとりましょう。

## 連絡、情報開示

- ✓ 自治体、保健センター、関係施設など、報告や情報共有が必要になる組織の連絡先について、平時から表などに整理しておき、緊急時に速やかに連絡できるようにしましょう。
- ✓ ご家族など他方面に連絡が必要な場合は、HP上でお知らせをするなど、連絡にかかる負担を軽減する対策があると有用です。HPに掲載する場合は、情報の更新頻度や文章のひな形などを検討し、用意しておきましょう。
- ✓ 連絡、情報開示の際は、個人の特定に結びつかないよう、利用者・職員の個人情報の取扱いに注意しましょう。

## 備蓄品の確保

- ✓ 非常時に必要となる備蓄品の量を計算し、リストなどで整理しながら備蓄品を確保しておきましょう。
- ✓ 防護具、消毒液などの消耗品は、品薄となり入手しづらくなる可能性があります。平時から備蓄品の使用期限の確認や必要数の確保に取組み、合わせて、複数の購入ルートを確保しておきましょう。

## 応援職員の確保

- ✓ 職員に感染が拡大すると、通常シフトを維持するための人員確保が困難になる可能性があります。法人内の他施設から応援を派遣してもらえないか、自治体や業界団体でボランティア派遣の制度がないかなどを確認しましょう。
- ✓ 応援職員にどのような業務を依頼するのか、業務の実施手順の伝達方法と合わせて検討しておきましょう。

## 重要業務の選定

- ✓ 非常時であっても止めることのできない業務などを「重要業務」として選定し、その継続に必要なリソース（人員、物資、ライフライン等）を確保しておく、あるいは確保する手段を検討しておくことが重要です。
- ✓ 重要業務は、人命に関わる業務や、経営・組織運営のために不可欠な業務などがあたります。
- ✓ 感染症まん延時は、感染対策を適切に行うことも重要業務の一部と考えられます。このように、平常時には行っていないものの、非常時対応として必要となる業務も重要業務として扱い、どのような業務が発生するか、洗い出しておきましょう。

## サービスの休止・再開（通所・訪問・居宅介護支援）

- ✓ サービスを休止・再開する基準や、判断する軸を定めておきましょう。（例：職員の感染率、利用者の感染率 等）
- ✓ サービスを休止する際に必要な手続きや連絡先、連絡内容を整理しておきましょう。
- ✓ 代わりにサービス提供してもらえないか、訪問サービス事業所や居宅介護支援事業所に相談しましょう。

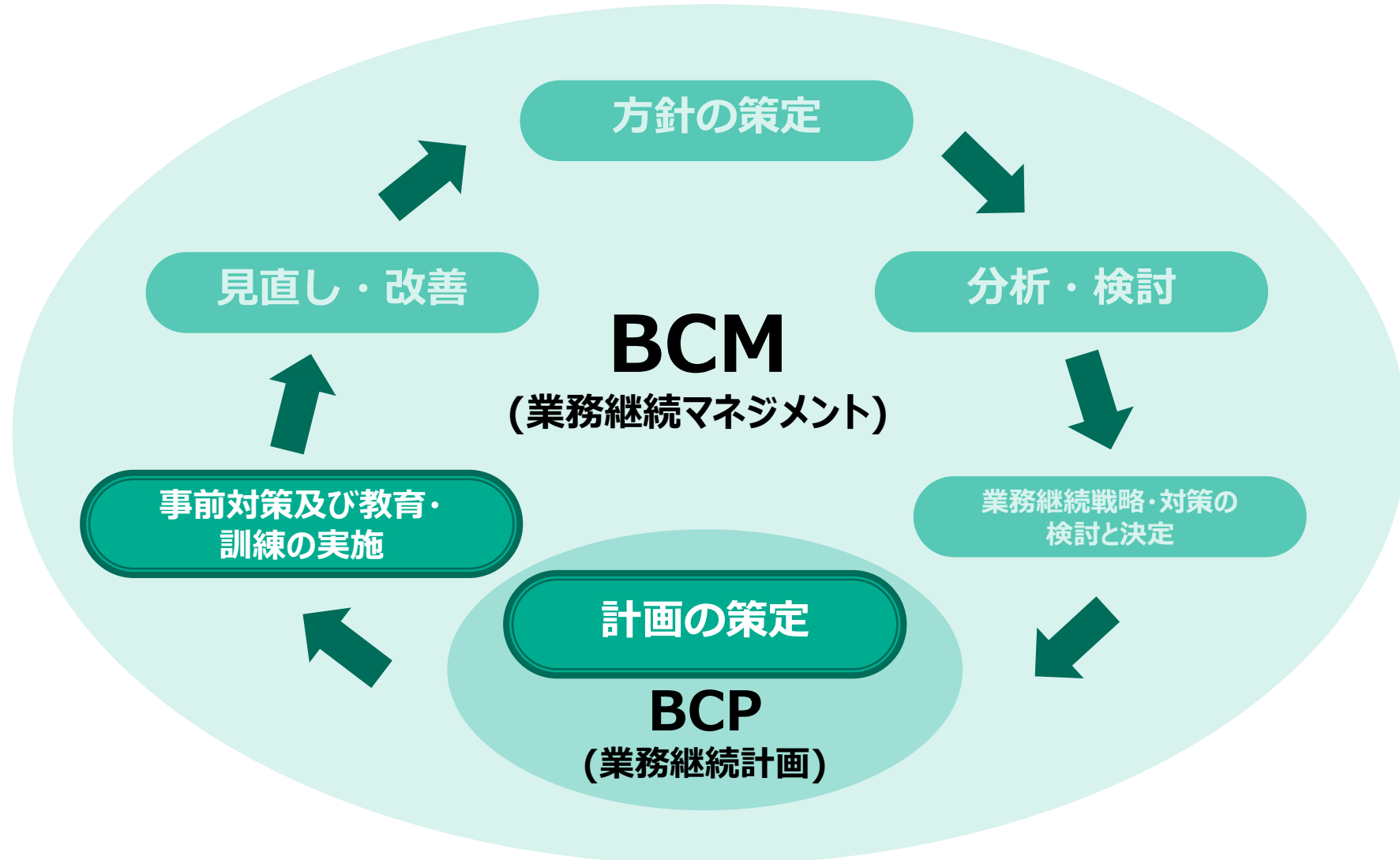
その他の感染者・感染拡大対応事項の例

<p>消毒・清掃</p>	<p>居室や利用した共有スペースの消毒・清掃が必要となります。 また、事業所全体の消毒を定期的に行うため、その時間帯、消毒箇所、必要物品、手順などを検討しましょう。</p>
<p>感染ルート、濃厚接触者の確認</p>	<p>保健センターから報告が求められない場合でも、感染拡大防止のため、感染ルートや濃厚接触者の確認が必要です。 円滑に把握するため、すぐにシフト表や業務記録を確認できるよう、準備しておきましょう。</p>
<p>健康管理の指示（手洗い、マスク着用、消毒、検温）</p>	<p>職員・利用者に対して健康管理を怠らないよう指示を出すとともに、必要に応じて検温や体調のセルフチェック結果の提出・確認体制を整備しましょう。</p>
<p>情報共有・報告フローの整備</p>	<p>感染疑い者や体調不良者を発見した際や、自己申告する際の報告フローを整備し、周知しましょう。また、事業所内外の感染症まん延状況や政府・自治体の動向などの情報収集と、収集した情報の共有方法について、体制を整備しましょう。</p>
<p>食事提供、排泄・入浴介助等、感染リスクの高い業務の継続方法の検討</p>	<p>食事は個室対応とする、利用するトイレを感染者・非感染者で分ける、入浴ではなく清拭とするなど、普段と異なる方法での対応を検討しましょう。</p>
<p>ゴミの保管、廃棄</p>	<p>感染性廃棄物の保管・廃棄ルールを整備しましょう。</p>

<b>I</b>	<b>【講義】BCP研修・訓練の目的、実施時のポイント</b>	<b>25min</b>
<b>II</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー自然災害編ーの進め方</b>	<b>15min</b>
<b>III</b>	<b>訓練体験ワークー自然災害編ー</b>	<b>70min</b>
	<b>(休憩)</b>	<b>10min</b>
<b>IV</b>	<b>【講義】訓練体験ワークー感染症編ーの進め方</b>	<b>10min</b>
<b>V</b>	<b>訓練体験ワークー感染症編ー</b>	<b>45min</b>
<b>VI</b>	<b>まとめ</b>	<b>5min</b>

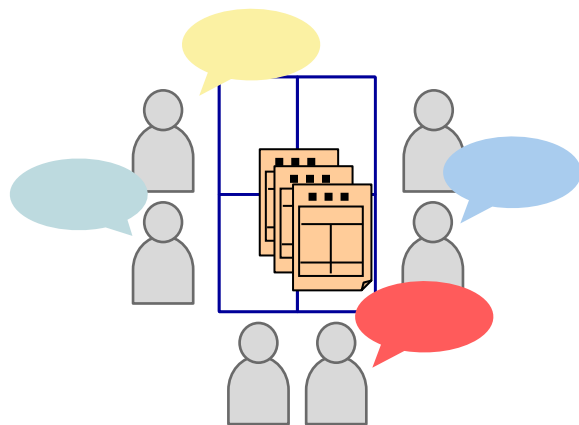
# まとめ

業務継続の取組みはBCPだけでなく、BCM(Business Continuity Management)のプロセスを繰り返すことによりレベル向上を図っていくことが重要です。



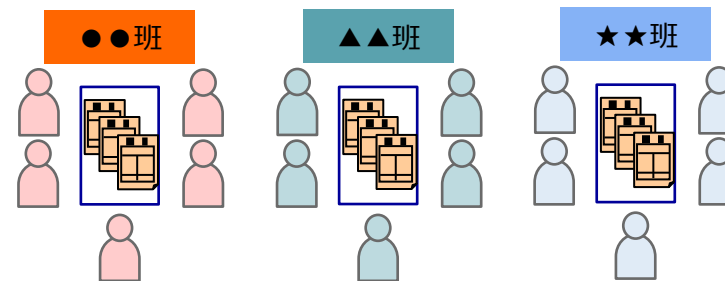
## ① ディスカッション形式の訓練

今回使用した課題について、自施設のBCPを確認しながらグループでディスカッションを行い、対応方法を検討します。時間に追われず、参加者で相談しながら考えることができるため、訓練初心者でも取り組みやすく、企画・運営が簡便です。



## ② 災害対策班単位での訓練

自施設のBCPで定める災害対策本部の班ごとにグループを作成し、自班で担当する課題のみを検討します。BCPで期待される自班・自身の役割や、対応方針・手順の詳細を確認することができます。



皆さんが平時から取り組むことができるのは、「自助」・「共助」であり、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日ごろから災害に備えておくことが重要です。

